

ブナの森の仕組みを学ぶ 「ストーリーボード制作会」

夏休み子ども教室イベント「ストーリーボード制作会」を開催しました。

制作の前に、ブナセンターの紙谷館長からブナの森の仕組みや森に暮らす動植物について学びました。制作は、NPO法人お山の森の木の学校の明石浩見さんが制作したブナ材ボードの上に、様々な生きものを模した木製パーツや木の実などを貼り合わせ、森の季節や時間の変化を表現しました。

子どもたちは楽しく制作しながら、自然について理解を深めました。

また、町内の子どもたちが作成したストーリーボードは、9月30日まで只見町ブナセンターに展示されました。



▲思い思いにブナの森の物語を表現する子どもたち

キレイに実りました 町内3小学校「手刈り体験」



▲只見小学校は新国真也さんの田で、脱穀のお手伝いもしました



▲明和小学校は松井栄吉さんの田で、はぜかけ体験もしました

町内3小学校の手刈り体験が、春の田植え体験でご協力頂いた農家の方々の水田で行われました。(只見小5・6年生/9月28日、明和小5年生/9月29日、朝日小5年生/10月5日)

児童は、しゃがんだまま行う手刈りの大変さを知り、昔は多くの方が協力して刈取りをしていたことや農業の機械化によるメリットなどを学びました。体験後には、「凄く疲れた。昔の人の大変さが分かった。人の手で1日かかっていたところが、機械だとあっという間に出来ることに驚いた」と話しました。



▲朝日小学校は藁谷友活さんの田で、コンバインの乗車体験もしました

デジタル生活の必需品

「スマートフォン体験教室」開催

スマートフォン初心者の方や所有したいと考えている方に向けた「スマートフォン教室」が、3 振興センターで開催されました。教室では、実際にスマートフォンに触れながら、文字入力の仕方やアプリのダウンロード方法、LINEの使い方などを体験しました。

インターネット検索の体験では、「今日のニュース」を写真付きの見出しで確認したり、「〇〇_レシピ」で簡単にレシピ検索ができることを体験しました。参加者は「使い方が分かれば凄く便利で、少しずつ活用してみたい」と話しました。



▲音声入力の仕方などの便利機能も体験しました

カードゲームでSDGsを意識する

カードゲーム「2030 SDGs」体験会開催



▲老若男女問わず多くの方が参加されました

「なぜSDGsが必要なのか」、「SDGsがあることによって、世界にどんな変化や可能性が起こるのか」をカードゲームで楽しみながら理解する「2030 SDGs」体験会を、10月2日に朝日振興センターで開催しました。

参加者は「世界のことについて、色々考えさせられるゲームでした。一見すると個別に見える様々な課題が、経済や環境、社会のそれぞれに影響を与えることが分かりました」とSDGsへの関心を深めました。

渋沢栄一と 青い目の人形と只見町

1927年、アメリカから約12,000体の可愛い人形が太平洋を越えて日本に贈られたことやNHK大河ドラマ「晴天を衝け」の主人公にもなっている渋沢栄一がその受入れに尽力したことをご存知でしょうか。

昭和初期、日米関係が悪化していた頃、親日家の宣教師ギュリックが子ども同士の交流事業として、アメリカの子どもたちに働きかけ約12,000体の人形が日本に贈られました。その時、日本側での受け入れの中心となったのが、渋沢栄一でした。

人形は、アメリカの子どもたちのお小遣いと寄附で賄われ、当時「青い目の人形」の童謡が流行していたこともあり、人形が日本に届けられると多くの日本人の心を動かしました。

しかし、太平洋戦争が始まると「青い目の人形」は焼かれるなど、多くが失われてしまいました。現存している数は、わずかに100~200体と言われています。

そのわずかに残る内の1体が只見小学校に飾られています。この「青い目の人形」は当時の伊北小学校（只見小学校）へ贈られていたもので、先生をしていた方が戦時中に保管をし、難を逃れたそうです。

渋沢栄一が日米親善のために尽力をし、世界平和を願った「青い目の人形」が只見町に現存しています。

これをきっかけに日米親善の架け橋となった渋沢栄一に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



※児童の安全のため、一般の方の人形の観覧はできません。ご了承ください。